



「きやべつの会」は京都市下京区・南区にお住まいのがん患者さん、ご家族がお茶を飲みながら交流し生きる力を取り戻す「地域の患者サロン」（下京西部医師会主催）です

がんゲノム医療



医療法人財団康生会
武田病院
医師 永田一洋

日本人では約二人に一人が生涯のうちにがんを患うと言われ、がんは身近な病気です。

ほとんどのがんは、喫煙や生活習慣、加齢などが原因となり、正常な細胞内の特定の遺伝子に変化することでがんが発生します。

すでにがんの組織などを用いて 1 つまたはいくつかの遺伝子を調べる「がん遺伝子検査」を行い、遺伝子の変化に対応した薬の選択が行われています。例えば、肺がんでは EGFR、ALK 融合遺伝子、ROS1 融合遺伝子、BRAF 遺伝子などの遺伝子変化が見つかり、それぞれに対して効果を示す分子標的薬が治療に使われ、大きな効果を上げています。（図 1）

「がん遺伝子パネル検査」ではがんに関わる多くの遺伝子を一度に調べることで、1 種類の遺伝子だけにしぼった従来の検査で分らなかったような変化が見つかることがあります。標準治療がない、または終了したなどの条件を満たす場

合に、「がんゲノム医療」として保険診療として行われます。（図 2）

「がんゲノム医療」で、これまで特定のがん、例えば乳がんや胃がんに使われてきた「HER2」タンパクを標的とした分子標的薬が卵巣がん、肺がん、膀胱がんなど様々な臓器で発生したがんの治療にも効果を占めることが分かりました。

遺伝子パネル検査の可否、タイミングについては主治医と相談しましょう。

遺伝子の変化が見つからない場合もあります。これまでの研究結果から、がん遺伝子パネル検査により遺伝子の変化に基づいた治療につながる割合はおおよそ 10%とされています。ほとんどのがんは遺伝しません、場合によってはがんに関わる遺伝子が次世代に伝わる場合があります。遺伝性のがんの発生に関わる遺伝子の変化が見つかる場合もあります。

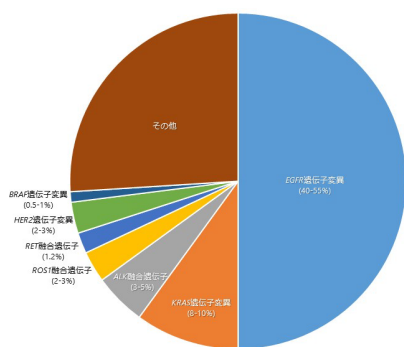


図 1

日本人における肺腺がんの原因となる遺伝子の変異や融合
国立研究開発法人日本医療研究開発機構ホームページより一部改変

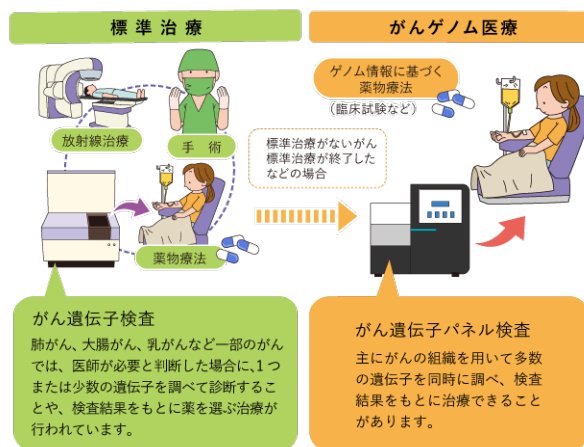


図 2



お願いします

今回の会報誌の担当は
武田病院です

【友だち登録にはLINE アプリが必要です】

- ① スマートフォン等でQRコードを読み取ってください。
- ② ID検索LINE アプリで「友だち追加」「ID検索」で「@903NUYTA」を入力してください



ID: @903NUYTA

発行：一般社団法人下京西部医師会

〒601-8452 京都市南区唐橋
堂ノ前町15-9 エステート南ビル301
☎075-693-3900 ㊟075-693-3911

たんぱく質について

康生会武田病院 栄養科 巽 朋子

たんぱく質とは、体を構成する筋肉をはじめ、内臓、皮膚、血液など体の主要成分です。特に筋肉は、水分を除くと約80%がたんぱく質からできています。

がんが進行すると、がん細胞から分泌されるサイトカインという物質が全身の炎症を引き起こし、たんぱく質の合成抑制・分解亢進が生じます。

そのため、がん治療を受けている方は早期より骨格筋（筋たんぱく）の減少が認められると言われています。

摂取したたんぱく質は、体内でアミノ酸に分解されて吸収され、再合成して利用されますが、その利用のされ方は、筋肉や内臓を構成するたんぱく質となるもの、ホルモンや抗体となるもの、脂肪として蓄積されるもの、エネルギーとして使われるものなどさまざまであり、すべてが筋肉となるわけではありません。人間の体内で合成できず、食事からとる必要のある必須アミノ酸のうち、バリン、ロイシン、イソロイシン（＝BCAA）は、3種類を総称して「分岐鎖アミノ酸」と呼ばれ、筋たんぱくの合成を促進し、分解を抑制するはたらきがあると言われています。

また、運動は筋たんぱくの合成を促進すると言われており、筋たんぱくの減少を防ぐためには、運動に合わせて、しっかりと栄養をとることが重要です。特に運動後（リハビリ後）に積極的にたんぱく質と糖質を摂取すると、筋たんぱくの合成に有用であると考えられています。

BCAA が豊富な食材

食材	1 回の目安量	BCAA 摂取量
牛もも肉	80g	約 3920mg
豚もも肉	80g	約 3020mg
ささみ	2 本（約 100g）	約 4300mg
まぐろ	80g（切り身 1 切れ）	約 3280mg
木綿豆腐	1/2 丁（約 150g）	約 1965mg
卵	1 個（約 50g）	約 1290mg
牛乳	100ml	約 700mg

日本食品標準成分表 2020 年版（8 訂）より



? ガイドラインって？



私にはどんな薬が使えるのだろうか？他の選択肢もあるのかな？そんな風に思ったことはありませんか？こんな時には一度ガイドラインを見てみてはいかがでしょうか。

診療ガイドラインとは、医療現場で適切な診断や治療を行うために病気の予防や診断、治療、予後の予測などの診療の根拠や手順を医学的根拠に基づいて最新の情報をまとめた文書のことです。こういった診療ガイドラインは各学会が編集していることが多いため学会のホームページで公開されています。また購入することも可能です。基本的には医療者向けに作られたものがほとんどですが乳がんや大腸がんなど患者向けのガイドラインを作成している場合もあります。ガイドラインを読むことでご自身や家族が標準治療（＝最善の治療）を正しく理解出来ます。そして医師と相談しながら治療計画やケアの方針を決定することが出来ます。

インターネットなど情報があふれている中で自分の力で正しい知識を得るのは困難です。ふと感じる疑問の答えがガイドラインの中にはあるかもしれません。



康生会武田病院 薬局

木村 麻紀

薬局長代理